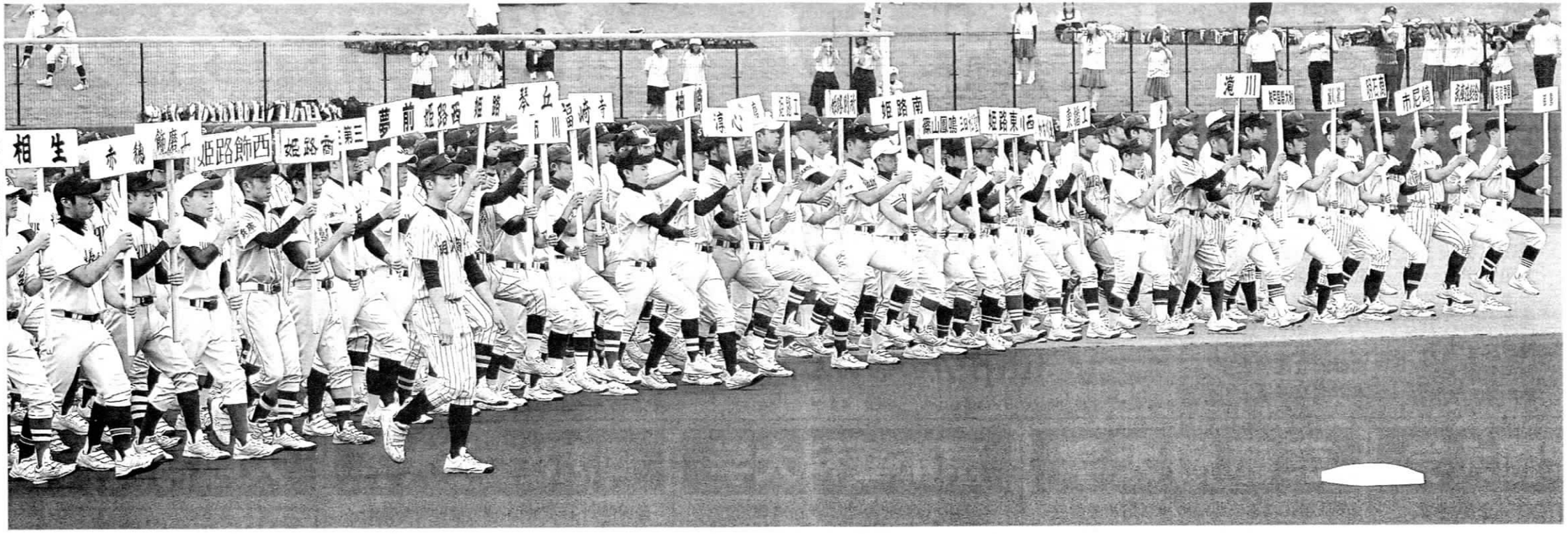
96ページ目の夏開幕



式で行進する選手たち＝姫路、水野義則撮影

姫路球場で開会式

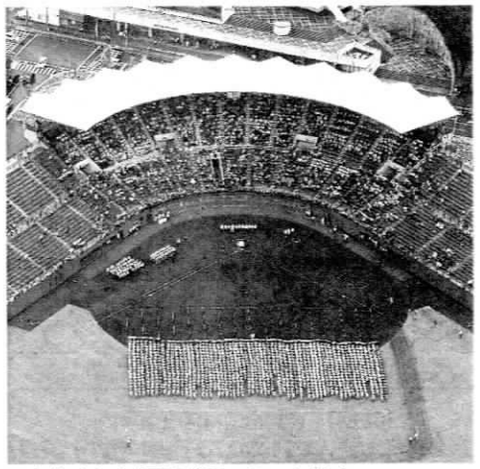
小雨が降る中、開会式には1900人超の観客が詰めかけた。

午前11時。バックスクリーン後方から飛んできたヘリから、始球式のボールがマウンド近くに投下されると、大きな拍手がわいた。ファンファーレが鳴り響き、開始を告げた後、昨夏の優勝校・西脇工を先頭に、64校の選手たちが入場行進した。改修工事を終えた姫路球場が3年ぶりに兵庫大会で会場になった。

堂々とした足取りで先導したのは、明石商の山上訓平君（3年）。控え投手として練習に励んできた一方、進学や就職を見据えて、簿記などの検定試験に取り組んできた。その姿勢が評価され、チームから大役を任された。

そんな山上君は式が終わった後、「みんなの代表なので頑張りました」と胸を張った。今大会、ベンチ入りはかなわなかったが、「みんなが一つになって、上位にいけるように応援したい」。

式では富樫暁宏・県高野連会長が「大会は96回。96ページ目も素晴らしい内容の大会になることを期待しています」と選手たちを激励。中邨清一・朝日新聞神戸総局長は「全力を出し切ってください。それが、これからの自分を支える力、自信になります」とあいさつし、吉本知之・県副知事と石田哲也・姫路市副市長が祝辞を述べた。


改修された姫路球場であった開会式で、整列する選手たち＝姫路、本社ヘリから、森井英二郎撮影

「全力プレーが将来の自信に」

「一球一打全力を尽くす」

選手宣誓「85点」

神戸国際大付・西主将

今まで支えてくださった方々に感謝し、一球一打全力を尽くしてプレーすることを誓います――。

神戸国際大付の西俊洋主将（3年）の堂々とした選手宣誓に、スタンドからは大きな拍手が送られた。西主将は開会式後、「最初は緊張した。強調したいところを強調できなかったので、出来は85点」とし、ほっとした表情を見せた。

「試合よりも、選手宣誓の方が不安だった」という西主将。文章は副主将の高橋優君（同）と石岡光希君（同）と一緒に考え、3年生部員からも意見を募った。4日には大蔵海岸（明石市）で海に向かって大きな声で宣誓する練習をして臨んだ。

昨夏の大会、初戦で敗れ、一球の重みを知ったという。一球に集中するという思いを、「一球一打」という言葉に込めた。

「油断せずにすきのないプレーをしたい。チャレンジャーの気持ちで向かっていく」と、12日の初戦に向け力を込めた。

← 選手宣誓をする西主将　朝日新聞2014.7.6より